

10月
October



神金公民館だより

第187号

2025年
10月1日

127年間で最も暑い夏

今年の夏、山梨県に発表された熱中症警戒アラートは41回となり、昨年の31回を上回りました。

10月も高温傾向が続くと予想されている中、暑さによる体への負担が大きくなっていますので、日々の体調管理を心がけていきましょう。

◆神金文化祭◆ 展示作品の募集

10月27日～11月3日に開催予定の神金文化祭の展示作品を募集しています。写真や絵画、書道作品、生け花などを展示予定です。地区内の方々の様々な作品が展示できるようご協力をお願いいたします。



神金トピックス&ニュース

新規防犯カメラ

県道筋（二本木線）に4カ所目となる防犯カメラが設置されました。

神金振興会で管理する地区内の防犯カメラは7台で運用されることとなりました。



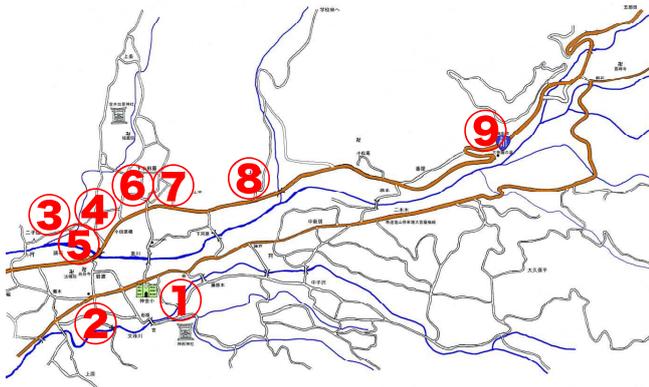
◆防災教室

9月2日、神金小学校4年生が防災アドバイザーの竹内さんを講師に防災教室を開催しました。

地震発生時の行動や登下校時に気をつける場所などを確認しました。



神金地域内AED設置場所



- ①神金小学校 33-2752
- ②神金公民館・2階児童クラブ内
◎児童クラブ用に市が管理
- ③第二塩山荘 32-5236
- ④サンリバー塩山 33-7733
- ⑤萩の里老人ホーム 33-7742
- ⑥黒川スタンド 32-3554
- ⑦神金分団第4部詰所内の車庫内
- ⑧神金分団第3部ポンプ車搭載

⑨大菩薩の湯 32-4126

そこにAEDがあれば、そこに助けようとする人がいれば、助かる命があります。地区内のAEDの地区内設置場所一覧を活用してください。
※防災アドバイザー作成

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

郷土の人 二

人を救うためにしたことが仇となり、心ならずも故郷を去らねばならぬことになった白道の心情は悲愴なものであったと察するに余りある。故郷を追われた白道は傷心のあまり暫くの間消息が跡絶えたが、寛政六年（一七七四）江戸日暮里の青雲寺の谿州和尚の弟子となり、聖観世音菩薩本堂と鎮守金比羅本社拝殿の建立に協力し、江戸中を勧進して回り堂宇建立の本望を遂げた。その後白道は上野原に来ている。

上野原はその名の通り高台にて水の便が悪く、人が住みたくても水がないため住むのには困難な地である。原村には当時七戸しか家がなく、水に不自由して遠くまで水を貰いに行かなければならなかった。原村の人達は白道という高德の僧がいることを聞きつけて招き、自分達はいつも水不足に悩まされているので何としても水が欲しいと話したところ、白道は直ちに祈祷して此処を掘れば必ず水が出ると教えた。村人は早速そこを掘ったところ豊かな水を得た。深さは約十四米位だそうである。

筆者はこの井戸を見たが、現在は人家が密集している交差点の近くに縁ありげに残っている。井戸の近くに「寛政九年巳年木食白道上人加持井水」と刻まれた石碑が建てられている。又、白道は原村の七戸に恵比寿大黒像を刻んで与えたと伝えられており、現在上野原町では白道が刻んだ恵比寿大黒像を町の文化財として指定しているそうである。

白道は上野原町から長野県伊那地方に巡錫している。ここにも二十体余の作品を残し、村人から負箱を贈られている。負箱の蓋の裏に「信州伊那郡光前寺村施主逞八、孫作、寛政十二年庚申春、正月大吉良辰」と書かれている。

故郷を追われる如く旅立ってから二十年後の享和三年（一八〇三）八月、念願があり再び故郷に帰った。ある夜の夢枕の御告により、萩原天満宮の建立を観世音菩薩より申し付けられしにより、生家の隣地に石垣を積み敷地を造成するため、天満宮社内石普請奉加帳を作り篤信者の寄進を得た。地元上原をはじめ中萩原、小田原、竹森等の人の名がある。萩原天満宮建立の趣意書は萩原天満宮縁記に詳しく書いてある。

*次ページに続く

神金の歴史

これは美濃紙五枚に綴った長文のものである。石普請奉加帳と外三冊計五冊が、竜王町紙問屋土橋商店に保存されていたので判明したのである。現在、白道の寄進によって積まれた立派な石垣も天満宮も現存している。

白道は再び故郷を後にして郡内鳥沢村に居住した。此処は扇山の麓にて宇清水入と称し風光明媚の地である。鳥沢に円福寺という臨済宗建長寺派の寺があるが、白道はこの寺と深い関係があったと思われる。白道の位牌に「木食大秀白道比丘」、裏に「当國萩原俗姓小野同所法幢院而剃度当山寄偶、猜水入山居凡二十有余歳、于時文政八酉年十二月二十四日寂」とある。

ついでに、過去帳も見せて戴いたが「木食大秀白道行者、十二月二十四日」と書かれていた。

鳥沢町から約一・五軒の扇山への林道沿いに白道上人屋敷があった。ここは日当たりもよいし清水も湧いていたが、昭和の初め頃に開墾され水田になってしまった。上人屋敷について北都留郡誌に「清水入に上人屋敷あり、小堂宇あり木食、彫刻と超世間的の日常の行為等により不思議に思はしめたる僧侶の寓したりしを伝う」とある。

白道はここに居住し富浜町、七保町を中心に大月市全域に宗教活動を行ってきた。この地に約三十余体の恵比寿大黒等の作品がある。白道は病を得て七十一歳で死去された。鳥沢から白道危篤の知らせを受けた近所の大が五人で引き取りに出向いたという説がある。生家近くの墓地に「空木白道沙弥霊」の墓があり、法幢院の過去帳にも戒名が記されている。

神金地区にある白道の作品は、下切の民家十三戸に十九体、上原のお堂に一体、上切下民家二戸に二体、上切上神戸に一体、下小田原四戸に四体、金井加里神社・上條のお堂に各一体、福蔵院に百体佛、計三十体あるが、まだ隠れたものがあると思う。特に子安地藏等は小さいので注意して欲しい。

(参考資料) 木食白道 木下達文著

